

## 与論島活性化のための手段の考察

農学部 3414220076

岩崎 史奈

### 1. 与論島における観光の重要性

与論島を活性化させるためには、観光を中心として考えていくことが必要である。平成 22 年度の与論町内総生産額を見ると、89.2%が第三次産業で占められており、与論島において第三次産業が特に重要であることが分かる<sup>1</sup>。したがって、与論島の活性化のためにまず考えられるのが、第三次産業を活性化させることである。また、与論島にとって、島外から来る観光客の存在は重要であり、これまでの与論島の活性化にも観光が大きく影響してきた。さらに、与論島の人口は減少傾向にあるが、観光客の増加は、Iターンによる人口増加につながる可能性があり、この点でも与論島の活性化において観光は重要である。そこで、観光の点から、与論島の活性化について考察する。

### 2. 観光客数増加のための手段

与論島を観光の点から活性化させるために、最も重要だと考えられるのは、与論島を訪れる観光客数を増加させることである。では、そのためにどのような手段が有効だろうか。

第一に、非常に基本的なことだが、与論島の観光地としてのアピールポイントを明確にし、それを広めるということが重要である。具体的に与論島の魅力を挙げると、透明度の高い海と白い砂浜、独自の文化と歴史、地理的魅力、雰囲気といったものがある。私が、実際に与論島を訪れるまで与論島に抱いていた印象は、海がきれいだというものだ。海は与論島の大きな魅力であり、最も伝えやすいアピールポイントである。夏場に観光客数が多いのも、海水浴等を目的とする観光客の多さが原因の一つなのだろう。しかし、近年、夏場と夏場以外の観光客数の差が縮まってきている。おそらく、夏場に海水浴等を目的としてやってくる観光客数が減少し、海だけでない与論島の魅力を求める観光客数が安定しているのだろう。このことから、海以外の魅力をより一層アピールすることが有効だと考えられる。具体的にどのような点をアピールしたら良いかだが、実際に与論島に行って、文化と歴史、地理的魅力、雰囲気、私にはどれも魅力的に感じられた。どれもアピールするべきだろう。しかし、問題はこれらの魅力は視覚的に訴えることが難しいため、海の魅力よりも伝え難いということである。上手くインパクトを与える表現方法を見つけ、それを広く伝えることができれば、観光客の増加につながるだ

---

<sup>1</sup> 与論町「平成 25 年版 町勢要覧」

[http://www.yoron.jp/common/UploadFileDsp.aspx?c\\_id=22&id=41&set\\_doc=1](http://www.yoron.jp/common/UploadFileDsp.aspx?c_id=22&id=41&set_doc=1) 2014 年 10 月 23 日参照。

ろう。画像や言葉で伝えるというのも有効だろうが、サブカルチャーを利用していくのも良い手段だろう。

第二に、施設を整備することが重要であるが、これはどのようなタイプの観光客を多く呼び込みたいかによる。海水浴を主な目的とする観光客を多く獲得するためには、施設を整備が有効であると考えられる。具体的には、大きな通りの外観を目立たせる、看板を増やすなどして、道を分かりやすくすることや、公共のトイレやシャワーをより清潔で使いやすいものにするなどである。しかし、このような施設を整備を進めていくと、与論島本来の景観を損ねる可能性がある。また、施設を整備により与論島が変われば、リピーター観光客や島の雰囲気求めて訪れる観光客にとっては、与論島の魅力が損なわれるということになりかねない。与論島の活性化は与論島民の希望するように進められるべきであるので、施設整備に関しては島民の意志次第だろう。どのように与論島を活性化させたいか、どのような観光客を多く獲得していきたいかによって、やるべきことは異なってくると考えられる。

第三に、与論島を知ってもらう機会を増加させるということが重要だが、これまでに、与論島内でのイベント、奄美群島全体をPRするイベント、ホームページやSNSの活用、沖縄でのPRなどの方法が考えられてきたようだ。私がこの中でも特に重要だと考えるのが、奄美群島全体での連携と、沖縄でのPRである。鹿児島から与論へフェリーで移動すると、約20時間を要する。船を苦手とする人にとっては、非常に困難な旅となるだろう。飛行機で移動すれば、約1時間20分で済むのだが、飛行機、フェリー共に鹿児島ー与論間の便数は基本的に1日に1本と少なく、交通の便が良いとは言いがたい。そこで、奄美群島全体での連携や沖縄でのPRが有効である。奄美群島で最も北に位置する奄美大島は、鹿児島からフェリーで約11時間と、与論と比較すると短時間での移動が可能である。また、那覇港からのフェリーでの移動は約5時間、那覇空港からの飛行機での移動は約35分と、那覇からの移動は、鹿児島からの移動と比較すると非常に短時間で済む。そのため、観光客を対象を奄美群島全体として考えてもらうことや、沖縄からの移動を促進することで、より多くの観光客を与論島に呼び込むことができる可能性が高いと考えられる。

以上が、私が与論島への観光客増加のために有効だと考える手段である。

### 3. まとめ

以上、与論島を活性化させる手段について観光の面から考察してきた。観光客増加のための手段として、海以外の魅力をより一層アピールしていくこと、道路や公共のトイレ、シャワーなどの施設を整備すること、奄美群島全体での連携や沖縄でのPRを行うことの3点が特に有効であると考えられる。ただし、2点目の施設整備に関しては、与論本来の景観を損ねる可能性があるため、慎重な検討が必要である。